

<認知症対応型共同生活介護用>

# 1. 調査報告概要表

作成日 2010年2月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	175000678
法人名	有限会社 ホープ
事業所名	グループホームはなぞの
所在地	紋別市花園町3丁目7番20号 (電話) 0158-26-2550

評価機関名	(有)NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成22年2月22日

## 【情報提供票より】(平成22年1月18日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 10日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 常勤 3人, 非常勤 15人, 常勤換算 14.8人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	25,000~27,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	330 円	昼食	330 円
	夕食	330 円	おやつ	円
	または1日当たり			

### (4) 利用者の概要(11月30日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	6名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.6歳	最低	60歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	さかき・もんまクリニック
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

紋別市中心部住宅地に立地した事業所は2階建て2ユニットになっており、近くには小学校や大型店舗があり、恵まれた環境になっています。居間には季節の飾り付けがされ、家庭的な暖かい雰囲気が感じられます。「一人ひとりが共同生活の中でも主役で居心地がよく、花や野菜を植えたり通常の家庭生活をおくる」を基本理念に掲げ、職員は笑顔で利用者に接することを心がけています。ホーム敷地内で町内会主催の親睦交流会やホーム行事「はなぞの祭り」を開催し、相互交流を行う中で地域への理解を広げる大きなチャンスとしています。又、冬期間ホームにイルミネーションが飾られ、利用者はもとより地域の人々の楽しみとなっています。地域との交流を更に深め、地域に開かれたホーム、地域の拠点になれるよう取り組んでいます。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点については、スタッフ会議や運営推進会議の中で報告し、改善に向けて具体案を掲げ、検討し、運営推進会議の定期開催、年2回の避難訓練を実施し、評価を日々のケアに活かしています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、自己評価を全員で行い、サービスの質の向上に努めています。自己評価・外部評価票は家族全員に配布されています。外部評価を積極的に活用していきこうと前向きに取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度、利用者・利用者家族・町内会副会長・市福祉課担当者・他グループホーム管理者等を構成メンバーとし開催されています。会議では入居者の状況や行事等について報告され、活発な意見交換が行われ、サービスの質の向上に活かしています。他グループホーム管理者の参加は、課題の検討や情報交換の場として役立っています。又、ホーム長も他グループホーム運営推進会議に参加しています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置し、重要事項説明書に内部・外部の苦情相談窓口を明示し、契約時に家族に伝えています。家族の来訪時に利用者の様子を伝えるとともに、何でも行ってもらえる関係づくりを心がけ、家族からの要望等については前向きに取り組み、サービスに反映させています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、行事(一斉掃除・総会・会議・親睦交流会等)に積極的に参加するとともに、町内会班長を引き受けたり、毎月発行のはなぞの通信を町内会に回覧するなど、地域に理解を得るため取り組んでいます。又、ホーム行事には多くの近隣住民や子供達が参加し、相互交流に努めています。沢山のボランティアや事業所を体験学習の場として中学生・高校生等の受け入れが行われています。

(有)NAVIRE

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりが共同生活の中でも主役で居心地がよく、花や野菜を植えたり通常の家庭生活をおくことを目指すという理念を作り上げています。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は常に理念を意識して利用者に支援をする事を心掛けており、申し送りや月1回の職員会議でも理念を振り返り取り組んでいます。リビングや廊下に掲示しています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会班長を引き受け、一斉清掃への参加や、総会や会議へ積極的に参加し理解を深める姿勢が見られます。町内会行事の親睦交流会に参加し交流する取り組みが見られます。近所の子供達が立寄ることもあります。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に自己評価に取り組んでもらい、管理者や介護支援専門員が取りまとめ、また外部評価の改善項目について全員で話し合い、改善に取り組んでいます。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催し、外部評価の改善事項として取り組む為、町内会役員・紋別市福祉課担当者・市内他のグループホーム管理者・家族・利用者・管理者等で構成されて、意義とホームの報告・意見要望を議事録として作成し、出席者に配布されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市保健福祉部・地域包括支援センター・保健所の会議に出席したり、消防署との訓練の連携や運営相談にも載ってもらいサービスの質の向上に取り組んでいます。中学・高校との連携もされています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族に毎月の請求に合わせてホームでの様子を書いた、「はなぞの通信」と利用者別に書いた「暮らしの様子」・金銭管理報告を送付し報告をしています。自己評価表・外部評価表も送付されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に電話や面会時に利用者の様子や受診結果など随時報告をしており、意見箱の設置や意見要望に速やかに対処する取り組みがされています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職は少なく、利用者への不安ダメージを防ぐため、ユニット間の職員同士が、利用者や馴染みの関係に配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には希望者と勤務日程を調整しながら、又休日を利用して参加しています。経験の浅い職員には技術取得指導を進めたり、後日報告書にまとめミーティング時に報告しています。	○	管理者や介護支援専門員だけでなく、職員も研修を受講できるよう、勤務ローテーションを調整して、スキルアップにつなげるように期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に管理者・介護支援専門員が積極的に参加し、また市内ケア会議で情報交換や交流を行なっています。市内同業者と認知症サポーター養成講座などに参加しサービスの質の向上に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の今迄の暮らしや趣向などを家族から聞き取り、見学を通して入居されている利用者や職員とのコミュニケーションを図りながら馴染めるよう配慮されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が出来ることを見守りつつ、掃除や調理、花の世話や畑仕事を職員と一緒にしながら学んだり信頼関係を築く工夫をしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向を把握し、生きがいや満足を与える工夫を、職員同士話し合い支援に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員がリーダーになって、毎月のミーティングでのカンファレンスや日常の話し合いなどで、アイデアを反映したケアプランに努めています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね3～6ヶ月ごとにケアプランの見直しを行っていますが、状況に変化があった場合、利用者・家族と共に話し合い新しいケアプランの作成を行なっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への受診支援、散歩や美容院、ドライブなどの外出支援、銀行や買い物の支援も行なっています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医や協力医療機関への受診に職員が同行する支援をしています。利用者に急変があった場合など、看護師の職員に相談できる関係が築かれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者及び家族と利用開始時に看取りについて話し合い、かかりつけ医を含め、状況の変化に応じ方針を共有しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉をかける時など損ねないように意識するよう心掛け、ミーティング時にも話し合い、介護日誌の記入は利用者を見守りながら行い、管理できる棚の中に保管しています。家族から個人情報の同意書もあります。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に声掛けして利用者の生活ペースに合わせた支援を行う様心掛けています。また一人ひとりがその日にしたい事を充分把握して支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に楽しく食事が摂れる様に心掛けています。嚥下困難な場合はきざみ食にするなど状態に合わせて工夫をしています。食事の準備や後片付も利用者の役割を持ってもらう支援をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回となっていますが、利用者の希望やタイミングによりいつでも入れる支援を行っています。長く入浴したり拒否したりする利用者については意思を尊重しつつ対応する支援をしています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で力を発揮出来る様、食事の配膳や後片付・花壇や畑の世話等の支援をしています。読書や歌うことの支援もしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花壇や畑の世話は勿論の事、観光スポットへ車での外出支援、町内会の行事の参加、散歩がてら買い物に行くなど戸外に出る支援をしています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	改善項目として鍵を掛ける事の弊害を理解し夜間を除いて玄関に施錠しておらず、ドアなどに鈴をつける工夫をしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画を作成して、消防署立会の下消火・通報・避難誘導訓練を年2回夏と冬を想定して実施しています。近隣住民への協力をお願いして訓練を実施しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定を実施、1000～1200ccを目安に水分の摂取や食事の摂取量の記録をして職員間で共有しています。利用者のリクエストに答えてメニューづくりもされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてディスプレイがされており、季節感を感じる工夫を取入れています。窓からは山が見えて静かな環境を感じられます。不快な音や光がない配慮もされています。ホームの外壁にはイルミネーションの飾り付けがされて、利用者、又、地域の人々の楽しみとなっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使用していた布団・タンス・鏡台・テレビ・人形等を持ち込み自分らしい空間で生活をしています。		